

令和7年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア 理科
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	124	46	39	7.6	14.7	451
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	489
4月16日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	125	57.0	46.0	48.7	39.3	49.1	7.5	7.7	13.1	12.2	8.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2 年	学校	117	62.2	40.5	51.4	42.1	48.2	8.6	5.9	11.9	4.9	6.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1 年	学校	117	52.8		49.2		57.4	13.9		9.5		6.4
	大阪市	—	63.3		57.6		66.5	9.1		7.6		4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査（GTEC）

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	118	104.1	101.1	119.5	88.1
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	28.89	24.79	42.96	46.43	76.17		8.16	183.25	20.77	38.26
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全 国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2 年 女 子	学校	24.52	21.27	44.76	42.75	53.58		8.88	165.41	13.07	47.11
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全 国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

調査結果から

全国学力・学習状況調査結果

【生徒質問紙の回答結果について】

「人が困っているときは、進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「学校に行くのは楽しい」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」以上の全ての質問において、肯定的な回答が全国や大阪市よりもかなり高い。しかしながら、「朝食を毎日食べているか」の質問では全国や大阪市と比較してもかなり低い。自己肯定感が高い生徒がかなり多いものの、日常の身の回りの習慣がついていない生徒が逆に多いと感じる。

【各教科の成果と課題】

<国語>

平均正答率を全国と比較すると8.3ポイント低く、大阪市と比較すると6ポイント低い。しかし、平均無解答率では大きな差はない（全国－0.9ポイント、大阪市－0.8ポイント）。全国や大阪市とは大差がないことから、本校の生徒は国語のテストには何とかして答えを書こうと努力しているのが分かる。

漢字の問題では大阪府や全国の正答率を上回っているものもある。理由を書く問題においても、大阪府の正答率よりも高いものもある。

<数学>

平均正答率を全国と比較すると9.3ポイント低く、大阪市と比較すると7ポイント低い。数学も国語と同じで、平均無解答率も全国や大阪市の数値を下回っている。

角度の問題においては大阪府や全国の正答率をかなり上回っているものもある。確率の問題においても、正答率が全国と全く同じで、かつ大阪府より高いものもある。

調査結果から

チャレンジテスト調査結果（1年、2年）

【1年生】

国語の平均点は大阪市の平均点より10.5ポイント、大阪府の平均点より10.3ポイント低い。自分の考えを表現する際は、伝えたい内容が適切に伝わるように文章の構成を考えるようにしていきたい。

数学の平均点は大阪市の平均点より8.4ポイント、大阪府の平均点より7.5ポイント低い。X軸とY軸に着目し、グラフから読み取れる内容から考察する力を養う必要がある。

英語の平均点は大阪市よりの平均点より9.1ポイント、大阪府の平均点より7.8ポイント低い。問題文の目的や場面、状況を意識して、話の流れをつかむ練習をしていきたい。

【2年生】

国語の平均点は大阪市の平均点より3ポイント、大阪府の平均点より2.3ポイント低い。伝えたい内容が適切に伝わるように、要点や根拠を明確にし、自分なりの言葉で考えを書く練習をする。

社会の平均点は大阪市の平均点より4.5ポイント、大阪府の平均点より3.6ポイント低い。地域の特色を生かした取組の共通性に着目し、他地域の課題の考察にも活用するようにする。

数学の平均点は大阪市の平均点より4.6ポイント、大阪府の平均点より3.6ポイント低い。観察や操作を、実験などの活動によって導かれたものと証明によって導かれたものの違いを理解することを通して、証明の大切さを学ぶ必要がある。

理科の平均点は大阪市よりの平均点より5.8ポイント、大阪府の平均点より4.6ポイント低い。実験操作とその結果についてし、実験の条件を変更することによって結果がどのように変わるかを、科学的な根拠をもとに仮説を立て、自分の言葉で表現する練習の必要性を感じる。

英語の平均点は大阪市よりの平均点より4.2ポイント、大阪府の平均点より3.6ポイント低い。接続詞や代名詞に着目し、文と文のつながりを意識して読む必要がある。また、文章全体の構成を把握し、含まれる情報から最も重要な点を判断して要点を整理し、捉える練習を行いたい。

調査結果から

チャレンジテスト調査結果（3年）

国語の平均点は大阪市の平均点より7.8ポイント、大阪府の平均点より7.2ポイント低い。話や文章を考える時には、聞き手や読み手に伝えたい内容が適切に伝わるように、話や文章の内容をふまえ、要点や根拠が明らかになっているか確認する必要がある。

社会の平均点は大阪市の平均点より5.5ポイント、大阪府の平均点より5.2ポイント低い。課題の解決に向けて、地図や統計などの複数の資料から必要な情報を読み取り、まとめたことを根拠に基づいて説明できるようにする。

数学の平均点は大阪市の平均点より5.6ポイント、大阪府の平均点より5.2ポイント低い。回転移動の性質を生かして、対応する辺や角を正しく見つけられるようにする。合同の証明で使う条件を整理しながら、順序立てて論理的に説明する力を伸ばすよう指導する。

理科の平均点は大阪市よりの平均点より5.8ポイント、大阪府の平均点より4.6ポイント低い。溶解度曲線から読み取った性質をもとに、実験の操作によって起こる現象を条件をもとに整理しながら、実験の結果について見通しを持って判断し、表現する必要がある。

英語の平均点は大阪市よりの平均点より4.2ポイント、大阪府の平均点より3.6ポイント低い。場面に応じた英文を書くためには、実際のコミュニケーション場面を想定し、文法や語彙を活用して、日常的な表現を練習する。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査

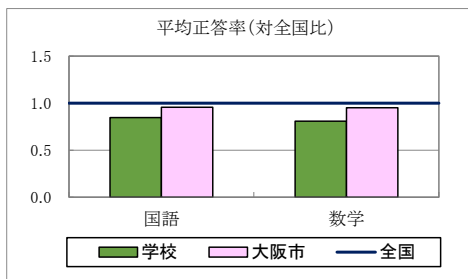
ハンドボール投げでは男女ともに全国と大阪市を上回った。握力においては男女とも大阪市の平均を上回った。さらに、女子は20Mシャトルランと50M走の両方で、大阪市平均を上回った。今後も生徒の実態に合わせて補強運動を考え、運動量を確保できるような授業内容を工夫し、体力向上につなげていく。

令和7年度 平野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

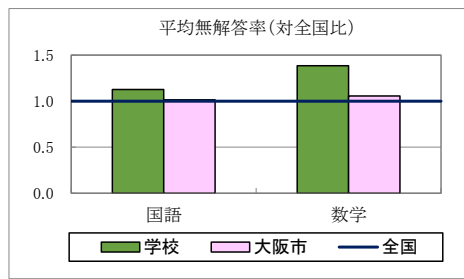
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	46	39
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

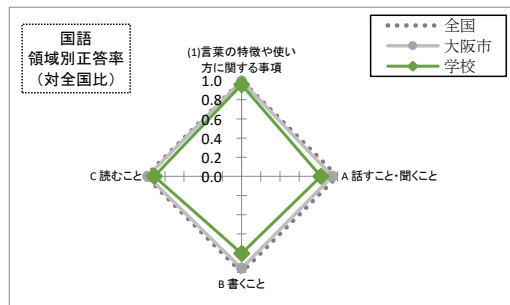
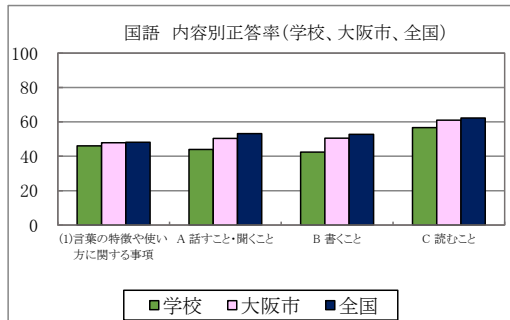


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	7.6	14.7
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



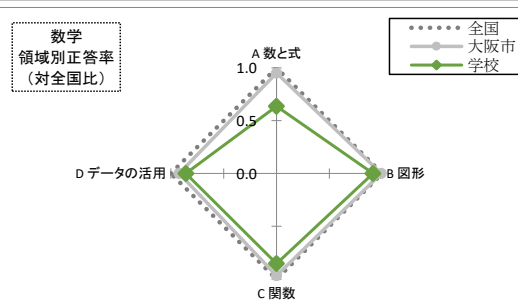
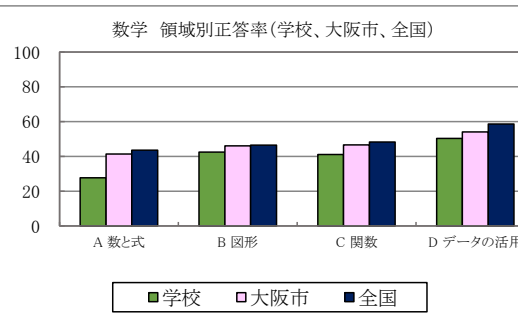
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	46.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	44.0	50.4	53.2
B 書くこと	5	42.4	50.6	52.8
C 読むこと	3	56.7	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	27.7	41.4	43.5
B 図形	4	42.5	46.1	46.5
C 関数	3	41.1	46.6	48.2
D データの活用	3	50.3	54.0	58.6

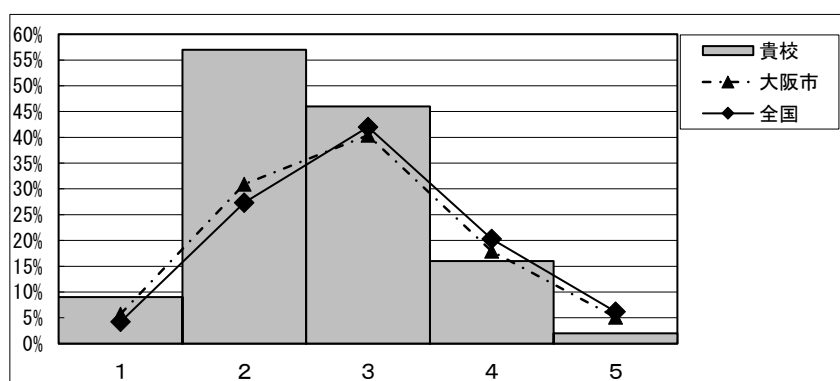
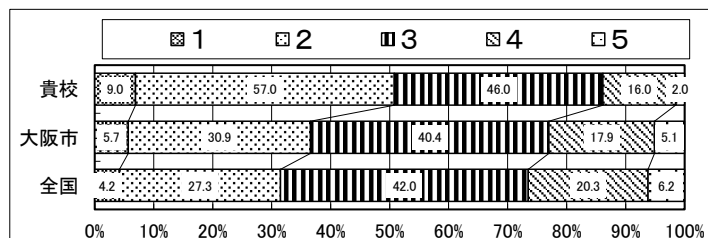


令和7年度 平野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	451
大阪市	489
全国	503



令和7年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

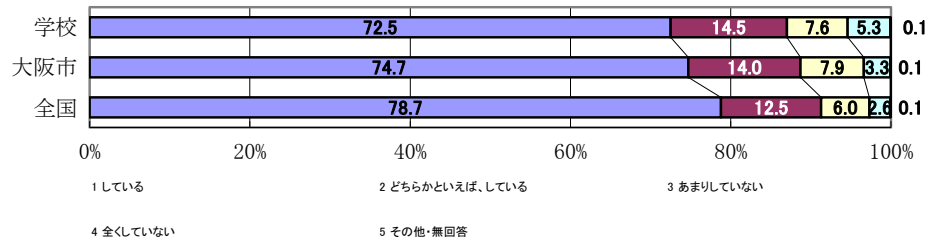
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

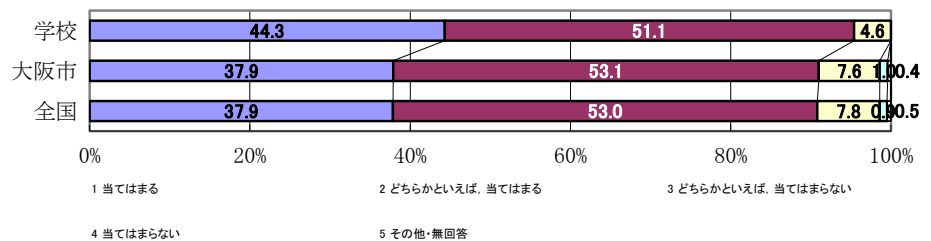
1

朝食を毎日食べていますか



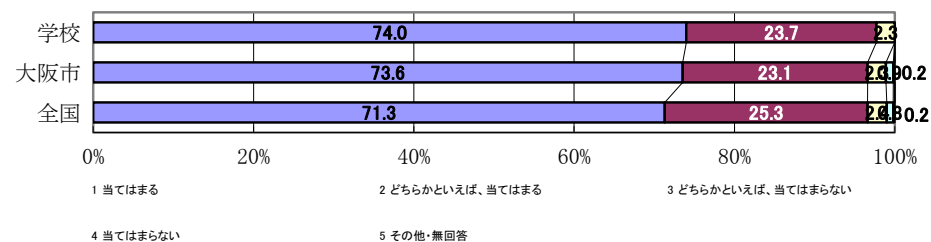
8

人が困っているときは、進んで
助けていますか



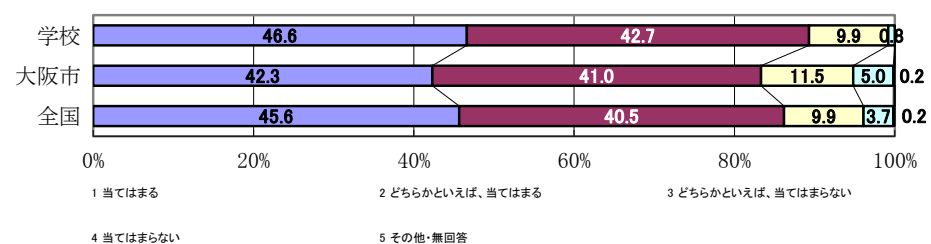
11

人の役に立つ人間になりたいと思
いますか



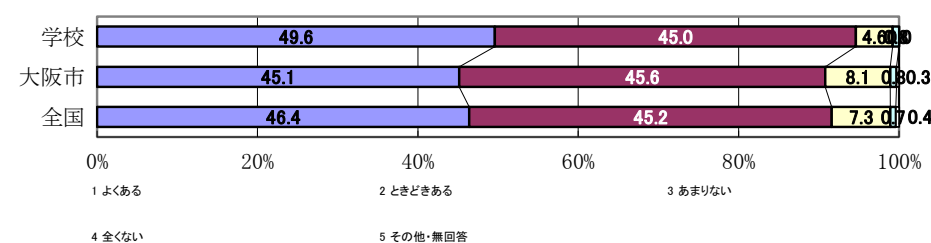
12

学校に行くのは楽しいと思いま
すか



15

普段の生活の中で、幸せな気
持ちになることはどれくらいあ
りますか



令和7年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

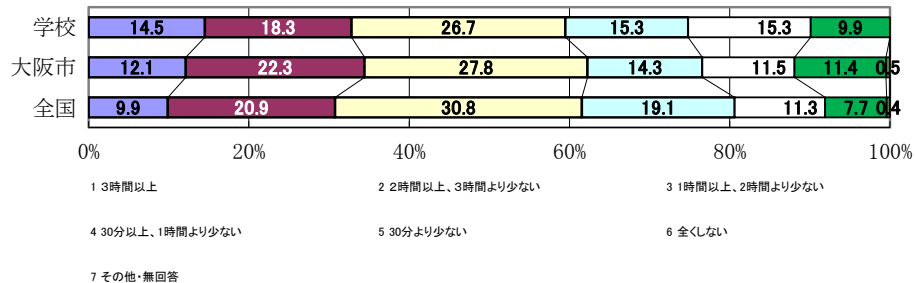
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

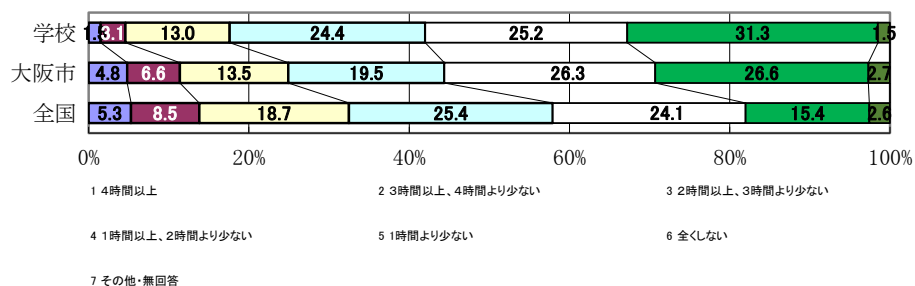
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



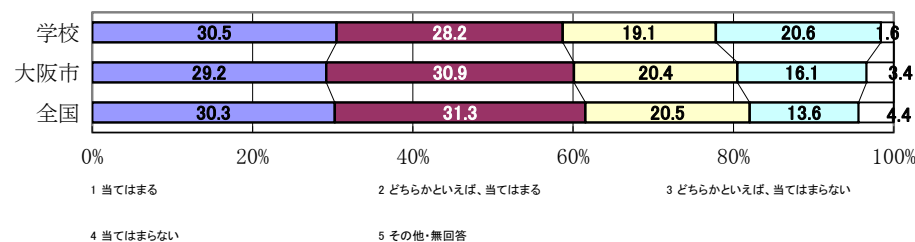
19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



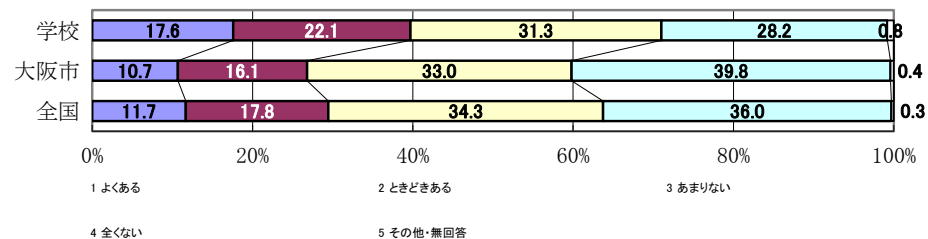
24

読書は好きですか



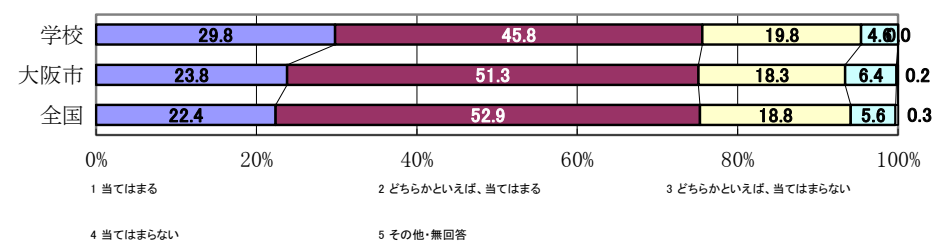
26

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)



27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



令和7年度 平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

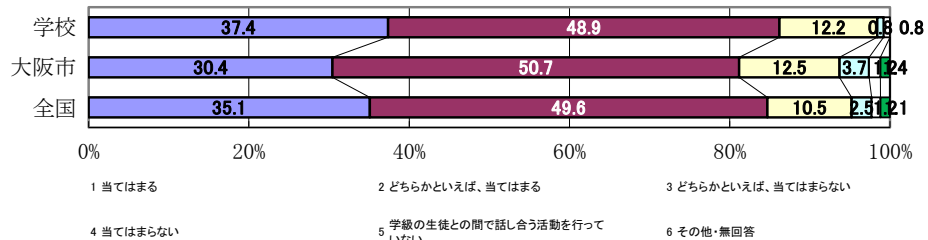
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

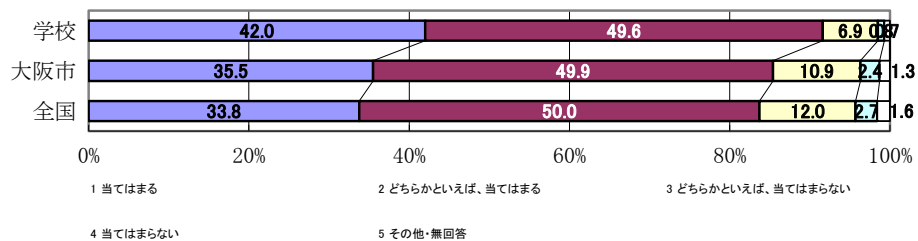
35

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



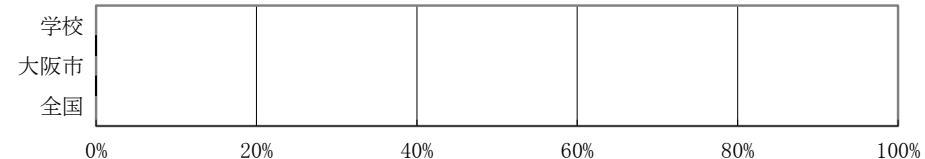
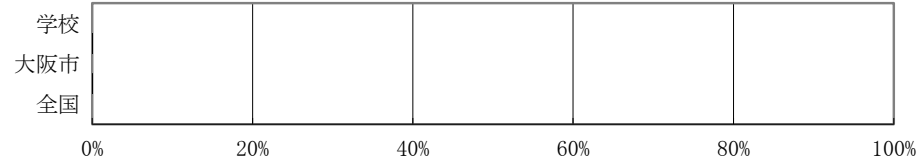
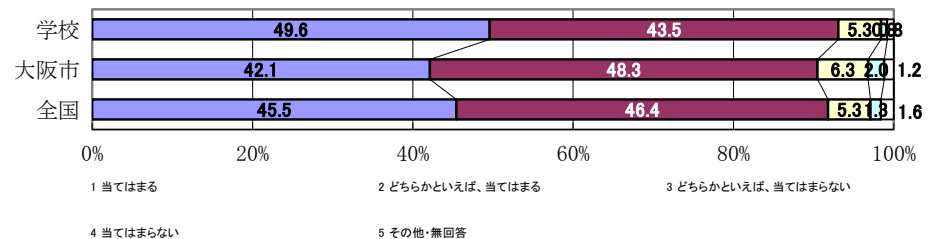
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



令和7年度 平野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

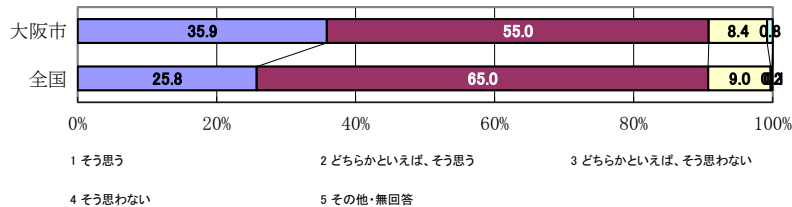
質問番号

質問事項

27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

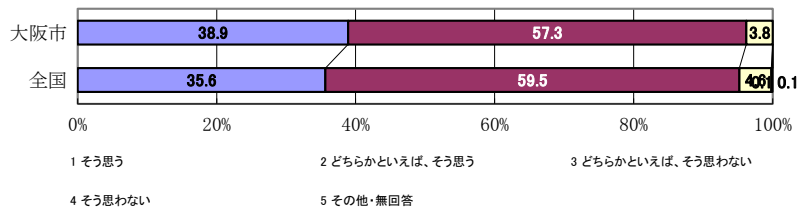
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

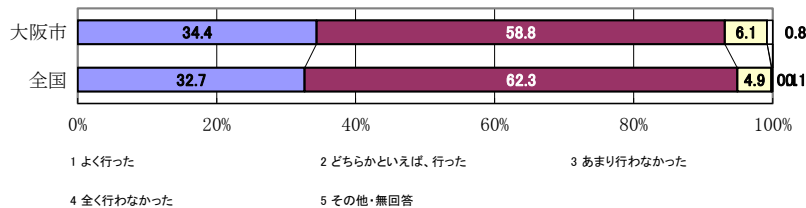
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

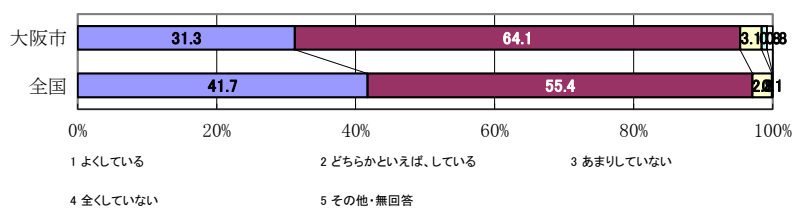
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



39

調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



学校 「」を選択

